（様式２）

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・２８〉　いわき市立　　内町　　小学校

＜実施日＞　　平成　２８年　　６月　１６日（ 木 ）

＜実践教科等＞　※当てはまる番号に〇を付けてください。４は（　）に教科等を入れてください。

１　理科　　② 学級活動　　３　総合的な学習の時間　　４　その他（　　）

＜実践内容＞

【児童の実態】

本学級の児童は、明るく外遊びを多く好み、休み時間になると、みんなで外遊びをしている。ほとんどの子が普段の生活の中では、放射線への意識が低く、手洗いやうがいも不十分な場面が多く見られる。また、放射線の性質や用語の意味も性格に理解していない。そこで、放射線に対する正確な知識を学んでいく必要があると考えられる。

【子どもたちの意識調査】

「手洗い・うがいをする」「服についたほこりや靴に付いた土などは落とす」「おふろに入る」などは、ほとんどの子が行っており、意識づけられていた。しかしながら、その理由としては、放射線を意識したものではなく、風邪を引かないようにするためなどの理由が多かった。このことから、普段の生活の中で、放射線を意識していることが薄いということがわかった。「放射線」という言葉は知っていても、生活の中での意識づけが必要であると考える。

【実践】

１　用語を知る

子どもたちは、「放射線物質」「放射能」「放射線」の区別ができていない。

副読本Ｐ９を参考にして、まずは基本的な用語の意味を確認した。子どもたちは、聞いたことはあるが、意味の違いまではほとんど知らなかった。

２　「放射線に関する指導資料」の中の指導案をもとに授業

副読本Ｐ１３をもとに、学習を展開した。目に見えない物質が、風で飛んできたり体についたりするということを学習した。さらに、身を守るためにはどうしたらよいかを学んだ。副読本の資料を中心にして放射線を意識できるようにした。見えない放射線に対して意識することができた。

＜成果＞

〇　まずは基本用語を知ることから始まった。聞いたことはあるが、初めて意味を知ったことにより、子どもたちの意識づけができた。

〇　モニタリングポストが放射線量を測っているものであることや放射線測定器を見たことがあるなど、児童も放射線や放射性物質について関心が高まった様子が見られた。放射線から身を守るためにはどうしたらよいか、知識として得ることができた。

〇　目に見えない放射線に対して、子どもたちが、何気なく行っている手洗いやうがいなどを、さらにしっかりと行う機会になった。

＜課題＞

●　放射線や放射性物質についての知識の定着はまだまだ未熟なため、くりかえし指導していくことが必要である。

●　学習したときは理解できても、また意識が薄れていくと思われるので、普段から意識できるよう、教師の働きかけが必要である。

●　知識を授業で指導するだけでなく、具体的に体験できるよう、指導の工夫をしていく必要がある。

資料作成担当者職（ 講師 ）氏名（　遠藤　隆浩　）	学校電話番号（ ２６−３５２８ ）

【 資料作成上の注意 】

１．平成２７年８月～平成２８年７月の実践についてまとめてください。

２．提出期限の平成２８年８月１日（月）までに電子メールで送信してください。

（送信先：kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp）